

**【施策評価調査】**

施策名	4-1-4	農村地域の再生と活力ある農村の創造		107	現在農業が抱える様々な問題を解決するためには、農作物生産以外にも農業・農村の持つ様々な価値を活用し、多種多様な展開を図る必要がある。この事業は、農地や山林更には過去に整備した農構事業で取得した施設等の足元の資源を活かしながら農業の振興を図りながら、地域農業の活性化を推進します。 本町における農業資源を見出し、それを有効に活用することにより、新たな農業・農村の構築を図る
	高根沢町地域経営計画2006 該当ページ				
担当部課	建設産業部産業課	担当	農業担当		農村地域の活性化を図るためには、魅力ある地域づくりを通じて交流人口を拡大し、農村マーケットの形成を図ることが必要です。本町の農村地域資源を有効に活用する仕組みとして、町内に散在する各サテライト(衛星)農家や農業施設等と有機的なつながりを構築し、農業そのものを第3次産業化していくとともに、商工業をはじめとする他産業と連携することが重要です。このため、農業と農村の魅力UPするため、都市と農村との交流事業を展開するとともに、体験農園の充実、森林ボランティア制度( )の創設、「元気あつむら」などを活用した新しい都市農村交流の提供などにより、消費者等が農村地域や農業そのものにふれる機会を充実させ、農村が備える「ゆとり」「やすらぎ」「いやし」を提供していきます。( ボランティアを募り町有林などの手入れをお願いする仕組みを検討するもの) (「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
		リーダー	矢野 雄二		
環境変化	19年度より経営所得安定対策として、品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全向上対策が実施される。20年度よりとちぎの元気な森づくり事業が開始されました。				

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標 : 元気あつむら長期修繕計画に基づく工事計画達成率	実績なし	計画	100%	100%	100%	100%	100%
		実績	100%	100%	100%		
指標 : 元気あつむら利用者数	利用者数 500,000人	計画	500,000人	500,000人	500,000人	500,000人	500,000人
		実績	480,914人	492,491人	477,096人		
指標 : 地域における木の良さ普及啓発や木の利用促進事業	参加人数 400人	計画			400人	400人	400人
		実績			570人		
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	51,460,000	68,063,000	71,598,000	195,822	98,256,000
	決算	61,264,598	56,714,115	85,527,426		

**事務事業事前評価 22年度の組立て**

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか?(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
農産物直売農家指定事業費	H21 現計 242,000	新規指定件数 10件	農家と消費者が直接取引することにより、信頼関係が構築されます。さらに、農業者が一番得意とする販売面に乗り出すことにより、生産意欲の向上にもつながります。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 245,000				
松くい虫防除事業費	H21 現計 1,655,000	適期防除の実施 2回	里山のシンボリックな赤松の大木については、松くい虫の被害により年々減少しつつある状況にあることから、元気あつむらにありますが赤松について、薬剤の適期散布や枯れた松を適正処理することにより、病虫害の抑制につながり、貴重な松の保全につながります。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 910,000				
将来まで守り育てる里山林整備事業費	H21 現計 2,110,000	計画面積の整備 2ha	荒廃した里山林について間伐や下草刈りを行い、整備後も継続的に管理作業を行い、人が散策出来る様な山林が形成されます。また、作業については、ボランティアを育成することにより、将来的に管理可能な体制づくりを推進します。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 2,210,000				
地域における木の良さ普及啓発や木の利用促進事業費	H21 現計 500,000	参加人数 400人	小中学生を中心に自分の使用する管や家財類を作成することにより創造の喜びと木の良さを認識してもらおうきっかけづくりになります。なお、この材料につきましては、間伐材を活用し森林の大切さや環境問題などについても合わせての事業となりますので、将来に渡り効果が期待されます。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 500,000				
みんなの森づくり支援事業費	H21 現計 510,000	森林観察会の開催回数 5回	間伐作業や観察会に参加することにより、山林への愛着や興味を持つことへのきっかけづくりとなります。さらに、事業に参加することにより、森林ボランティアの育成につながることが期待されます。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 501,000				
間伐材等の有効利用促進事業費	H21 現計 500,000	間伐材の利用率 50%	間伐材を、可能な限り活用することにより、新たな資源やエネルギーとしての認識がなされ、木の持つ多様性について認識が向上されます。たとえば、雄木の中ですトープの燃料として使用可能なものや、木の植菌用として使用や、製材して使用可能なものについては体験用として使用することが可能となります。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 500,000				
元気あつむら整備事業費	H21 現計 122,353,000	修繕計画及び機器更新計画に基づく達成件数 5件	元気あつむら施設の適正管理を行うことにより、安定した営業が営まれ故障や苦情などが抑制されます。効果として集客が確保され施設の安定経営につながることは基より、農産物直売所の会員も元気に、訪れた人々に安らぎを与え心身共にリフレッシュされます。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 21,548,000				

農地・水・環境保全向上対策推進事業費	H21 現計	15,379,000	管農活動取組面積 12,500a	地域の農家と非農家が共同作業により水路等の草刈作業や、花壇整備等を行うことにより、地域集落の連帯感が生まれ、町づくり人づくりに寄与します。さらに事業地区を訪れた方は、田んぼに花が咲いていたり、道端に花が咲いているなど、美しい農村景観が築かれています。また、事業実施地区においては、老人会、育成会など集落の組織が一体となり事業に取り組んでいることから、地域づくりにも寄与しています。	今後の方向性 (総合評価)	継続
	H22 計画	15,315,000			今後の方向性 (総合評価)	継続
土地改良施設改修整備事業費	H21 現計	7,662,000	鬼怒川東部土地改良区管理の本町内管理施設(理)の改修率 33.90%	事業実施地区である市の堀、井沼川には旧式の堰が設置されていることから、これらを管理委託されていますが農業者が高齢化が進み集中豪雨時においては、管理が対応出来ない状況にあることから、堰を改修することにより、近年多発しているゲリラ的な豪雨にも対応可能となり、農作物への被害防止は基より防災機能が保全されます。	今後の方向性 (総合評価)	継続
	H22 計画	11,555,000			今後の方向性 (総合評価)	継続
元気あつむら体験の森指定管理委託事業費	H21 現計	1,800,000	年間施設利用者数 5,800人	元気あつむら関連施設等を同一者に委託することにより、利用窓口が同一サービスとなりサービスの向上が図られ、受託者においては宿泊施設と併せて体験施設を活用しての、多種多様な事業の展開や施設の高度利用につながります。	今後の方向性 (総合評価)	継続
	H22 計画	1,800,000			今後の方向性 (総合評価)	継続
元気あつむら親水公園指定管理事業費	H21 現計	7,900,000	年間施設入場者数 10,000人	指定管理者に裁量を与えることにより、必要かつ有意義な管理が行われます。さらに見る・遊ぶ・体験するなどの新しい事業が展開され、子供たちの憩いの場になります。	今後の方向性 (総合評価)	継続
	H22 計画	7,900,000			今後の方向性 (総合評価)	継続
元気あつむら指定管理委託事業費	H21 現計	31,400,000	施設利用者数 500,000人	指定管理者に委託することで、管理者に企業としての自覚や経営努力をうながし、乗客及びサービス向上が図られ、経営の安定化につながり、農産物直売所の売上向上へも波及するもので、これらの会員も元気になります。	今後の方向性 (総合評価)	継続
	H22 計画	31,400,000			今後の方向性 (総合評価)	継続
土地改良施設維持管理交付金	H21 現計	3,855,000	維持管理計画書の作成 一式	土地改良施設維持管理交付金の交付により、隣接土地耕作者個人では対応不可能な水路や施設の改修工事などが、土地改良区により用排水路の維持管理事業が推進され、洪水の防止や防災機能の保全につながります。	今後の方向性 (総合評価)	継続
	H22 計画	3,855,000			今後の方向性 (総合評価)	継続
林業振興事業費	H21 現計	16,000	事業実施森林面積 3.19ha	この事業は、森林所有者の要望により、たかはら森林組合が事業主体となり、人工林の下草刈り及び間伐作業を行うための基礎調査や看板の作成費用の一部に使用するものであり、事業により計画的かつ効率的な森林の整備が行われます。	今後の方向性 (総合評価)	継続
	H22 計画	16,000			今後の方向性 (総合評価)	継続

### 施策事前評価 22年度の組立て

		後期計画に向けた施策展開のビジョン	H22年度の狙い
自己評価	今後の方向性	施設の維持管理や整備事業を適切に行い、有効活用を努めます。また、農地や山林につきましては、協働による作業を中心に組み立て、将来的に継続されるような仕組みづくりを行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とちぎの元気な森づくり事業の定着</li> <li>・施設の適正管理の徹底</li> <li>・指定管理事業の内容検証</li> </ul>
	現状水準維持		
総合評価	総合評価		
	継続的に事業を推進していることは評価するが、農産物直売農家に代表されるように、次の展開がみえない。直売農家を認定し、マップをつくり、どのような成果が出たのか？次の展開はどうするのか？後期計画に向け、政策である「攻めの農業」をどう具現化していくのが、実効性のある取り組みを検討すること。		